

目 次

1. 療育プログラム開発の実際（過去3年間～5年間を見通して）	
(1) 中学校・高校グループ： 子どもたちの提案を活かした見通しのある活動の工夫……………	6
(2) 小学校高学年グループ： イメージの共有による相互関係を高める活動の工夫……………	18
(3) 小学校低学年グループ： 個の遊びの充実と集団遊びの工夫……………	29
(4) 幼児グループ： 見立て遊びでじっくり遊ぶ・他者と関わる活動の工夫……………	41
(5) 中学校・高校グループ（課外活動グループ）： リクレーション活動とソーシャル・スキル活動の 統合をめざした活動の工夫……………	48
2. 療育プログラムに遊び活動を組み込むことの意義 ……………	61
3. 子どもたちの特別なニーズに応じた療育プログラム開発 ……………	73
4. 療育プログラム活動と親およびスタッフのふりかえり ……………	89
5. 療育プログラム開発の過去・現在・未来—実践と研究— ……………	117
執筆者一覧……………	130

※各章著者は p.130 参照のこと。